

令和5年度|2023 教員・職員(FD・SD)活動報告書

郡山女子大学|郡山女子大学短期大学部

2024 年 6 月
学園教育充実研究会

目 次

I 全授業公開 __4

II 学園教育充実研究会[大会]

テーマ ―地域に根差した本学の取り組みと今後の展望― __5

主催:学園教育充実研究会 共催:地域連携推進室

■5名の教員による地域連携活動の事例発表

■地域連携推進室「地域連携室の取り組みと新規事業について」

III 各種研修会 __14

1. 大学 家政学部 食物栄養学科 主催

学科セミナー「冪的な統計力学の世界」

2. 教養・キャリア教育委員会、IT管理・運営委員会、就職部 共催

令和5年度 めばえドリル利用促進研修会

3. 学園教育充実研究会 主催

ChatGPT入門:生成系AIを使って何ができるか

4. 入学事務部・広報部、学生募集・入学募集委員会 共催

近年の高校生の動向と学生募集の展開

5. 大学 家政学部 食物栄養学科 主催

学科セミナー「健康と身近なスポーツ」

6. 教務部、不正防止委員会 共催

科研費説明会

①科研費について(教務部)

②研究倫理教育受講のお願い(不正防止委員会)

7. 障がい学生支援委員会・学生生活部 共催

障がい学生支援研修会「女子学生のメンタルヘルスについて、学校の役割・対応」

8. 大学 家政学部 食物栄養学科 主催

学科セミナー「今、病院で求められる管理栄養士とは」

9. 生涯学習・国際交流委員会 主催

生涯学習・国際交流委員会特別講座 「目標達成のための予定の作り方」

10. 短大 幼児教育学科 主催

学科セミナー第一部「デンマークの保育施設における音楽教育/健康教育に関する調査報告」

第二部「幸福先進国デンマークの子育て・保育とデモクラシー」

11. ハラスメント防止委員会 主催(動画視聴)

ハラスメント防止研修会「あかるい職場応援団(厚生労働省)」

12. 学園教育充実研究会 主催

令和5年度 著作権に関する研修会

令和3年度著作権改正に基づく「図書館など公衆送信サービス」の創設と、その問題点について

IV 事務局職員 外部研修参加記録 __28

総務部・経理部・管財部・入学事務広報部・教務部・学生生活部・就職部・図書館・附属高等学校

I 全授業公開

全授業公開は、開講する全ての授業を教員や職員に公開するものである。昨年度はコロナ感染拡大防止の観点から、所属の学科の授業のみ参観としたが、今年度は、通常公開に戻し、さらに前期・後期、それぞれの時期に全授業公開を実施した。

I. 背景と目的

全教員の授業力のさらなる向上

II. 公開方法

■ 公開時期

[今年度]

前期	6月19日(月)～7月7日(金) 一般的には第10回目～12回目の授業
後期	11月20日(月)～12月8日(金) 一般的には第10回目～12回目の授業

■ 公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② 参観者から事前の連絡が欲しい場合、注意事項がある場合、特別な理由などにより非公開の場合は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の3日前までに行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を教務部設置の提出BOXに提出する。

■ 参観について

- ① 期間中の参観を任意とする。
- ② 参観1回につき研修会参加1回分としてカウントする。
※参観の有無(回数)は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2 時限連続の授業等においては1時限分のみでも可とする。

III. 全授業参観者数

	大学教員	短大教員	合計
前期	14	9	23
後期	5	7	12
計	19	16	35

Ⅱ 学園教育充実研究会 [大会]

「学園教育充実研究会」は、昭和44年（1969年）、教育力の向上と教職員の相互連携を目的として、故 関口 富左名誉学園長によって発案され、以来半世紀以上に渡って、教職員が互いに学園の教育充実のために研鑽を積み重ねてきたという、長い歴史を持った研究会である。

コロナ禍ではオンライン、オンデマンドでの開催となっていたが、昨年度から再び、教職員が一堂に会し対面で開催している。

今年度の大会は地域連携推進室と共催で、「**地域に根差した本学の取り組みと今後の展望**」をテーマ開催された。本学では近隣地域と様々な連携協定を結んでいるが、学内の教職員らは灯台下暗して、学科や部署あるいは個人がどのような地域連携活動を行っているのか、具体的な活動が見えにくい状況にある。このような現状を踏まえ、今年度の大会では、5名の教員による地域連携活動の事例発表、さらには地域連携推進室より「地域連携室の取り組みと新規事業について」発表することとなった。

大学・短大における地域連携活動の現状を把握し、またお互いの地域連携活動のノウハウを得ながら、学生と教員が地域の現場に入り、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動を行いながら、更なる地域貢献を目指す機会とすることを目的に実施された。

■日 時 2024 年 2 月 16 日（金） 9:00～12:20

■場 所 建学記念講堂小ホール

■参加者 FD部門 ： 大学教員 33名 短大教員 36名

SD部門 ： 事務局職員（高校事務局を含む） 38 名 計 107名

■テーマ 「地域に根差した本学の取り組みと今後の展望」

【第59回 学園教育充実研究会 大会プログラム】

企 画	時 間	内 容
開会式	9:00~9:15	1. 学園長挨拶 2. 斎藤美保子副学長挨拶 3. 学園教育充実研究会主任挨拶 4. 研修の概要説明
事例発表 地域連携推進室 共催	9:20~	演 題 「地域貢献のモチベーションとシビックプライドの向上」 講 師 長田 城治 先生 (生活科学科 准教授)
	9:40~	テーマ 「保育分野における地域連携と授業化の取り組み」 講 師 柴田 卓 先生 (幼児教育学科 准教授)
	10:00~	テーマ 「地域を支える人材を育む地域連携活動の取り組み」 講 師 金子 依里香 先生 (健康栄養学科 准教授)
	10:40~	テーマ 「地域で学ぶ2年次必修科目 『地域創成プロジェクト演習』の取り組み」 講 師 山口 猛 先生 (地域創成学科 准教授)
	11:00~	「葛尾村での地域貢献から広がる連携活動の輪」 講 師 郡司 尚子 先生 (食物栄養学科 准教授)
	11:20~	「地域連携室の取り組みと新規事業について」 講 師 安齋 文明 氏 (地域連携室) 小松 太志 先生 (地域連携室・地域創成学科 准教授)
閉会式	11:45~12:20	講評 紺野信弘副学長

■実施内容

●開会式 9:00~9:15 建学記念講堂小ホール



【関口学園長 挨拶】



【学園教育充実研究会主任 挨拶】

●事例発表 9:20~12:00 建学記念講堂小ホール 「地域貢献のモチベーションとシビックプライドの向上」

講師 長田 城治 先生（生活科学科 准教授）



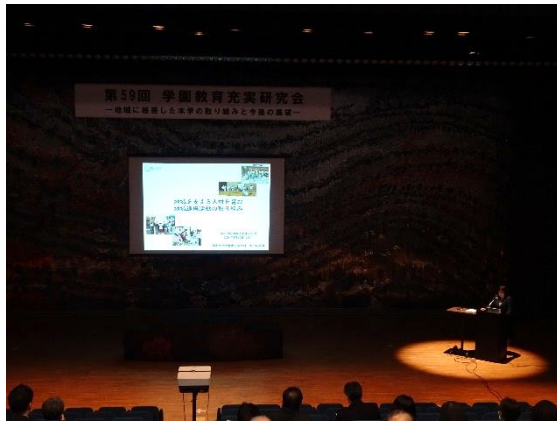
「保育分野における地域連携と授業化の取り組み」

講師 柴田 卓 先生（幼児教育学科 准教授）



「地域を支える人材を育む地域連携活動の取り組み」

講師 金子 依里香 先生 (健康栄養学科 准教授)



「地域で学ぶ2年次必修科目『地域創成プロジェクト演習』の取り組み」

講師 山口 猛 先生 (地域創成学科 准教授)



「葛尾村での地域貢献から広がる連携活動の輪」

講師 郡司 尚子 先生 (食物栄養学科 准教授)



「地域連携室の取り組みと新規事業について」

講師 安齋 文明 氏（地域連携室）

小松 太志 先生（地域連携室・地域創成学科 准教授）



【安齋 文明 氏】



【小松 太志 先生】



【活発に行われた質疑応答】

●閉会式 11:45～12:20 建学記念講堂小ホール

講評

紺野信弘副学長



【第59回学園教育充実研究会 大会 参加者アンケート結果】

入力期間:令和6年2月16日(金)～令和6年3月22日(金)

全体145人 回答人数111人[76%] 未回答人数34人[24%]

設問1 第59回学園教育充実研究会「地域に根差した本学の取り組みと今後の展望」に参加しましたか？

[参加した]	87人	78%
[参加しなかった]	24人	22%

設問2 総合的に見て第59回学園教育充実研究会のテーマや内容はどうでしたか？

[有益だった]	71人	81%
[やや有益だった]	16人	18%
[やや有益でなかった]	0人	0%
[有益でなかった]	1人	1%

設問3 第59回学園教育充実研究会のテーマや内容についての感想・質問・改善策等がありましたらご記入ください。

【回答数30名】

- 地域連携に関する取り組みが紹介されて、大変勉強になりました。面白かったです。
- 先生個別の活動で、いままで分からないことが聞けて参考になった。
- 他学科の取り組みを、初めて深く認識・理解することができた。
- 地域貢献の集約や、まとまった情報発信は、地域へのPRや、学生募集に必須であろうと思う。
- また、科研費以外の、さまざまな外部資金情報について、どこかで集約し、もっと積極的に応募をしても良いと感じた。
- 終ってみて、他でどのようなことが進められていたのかが、わかった。
- 各学科の地域貢献への取り組みがよくわかった。
- 地域貢献活動について、各学科や地域連携推進室の活動内容が一遍に把握できる良い内容だったと思います。
- 皆様の活動内容に感心致しました。
- 大変すばらしいと思いました。
- もう少し長い時間個別の先生のお話をお聞きしたかった。地域貢献活動は、大学として継続して取り組まなければならない課題ですので、毎年1、2名程度、研修会として継続的に開催していただくと大変勉強になります。
- 大学・短大教員の地域貢献活動内容を概略とはいえ、知ることができてよかった。教員の研究テーマによるが、地域貢献に具体的にかかわれる教員が増えることを期待したい。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 学内でも他学科、他部署、他教職員の地域との関わりは見えにくい。改めて多様な活動に圧倒されると共に、本学の存在価値を実感する良いテーマであり、内容であった。
- (特に)他学科の先生方がどのような取り組みをされているのか知ることができ、とても勉強になりました。また、それぞれの先生方が専門的な知識を活かしてクリエイティブな活動をされており、感銘を受けました。ありがとうございました。
- 他学科の取り組みや具体的な方法を知ることができて良かった。
- 他学科の取り組みが良くわかってとても有益でした。ありがとうございました。
- どの発表もわかりやすく有益な情報を伝えてくれた。
- それぞれの学科の地域連携活動の取り組みを聞いて、大変勉強になりました。目標を決めて、最後まで地域の為に取り組むことで、研究そして教育に繋がっていくのだと思いました。

- 長田先生の資料、もう一度読みたかったです。
- 地域連携事業の進展が目立つ。
- 今回の内容は勉強になりました。
- 地域連携について外部講師を招いても良かったかと思います。
- 他学科の地域連携事業を俯瞰することが出来、共通の課題、成果等大変刺激になった。
- それぞれの具体的な取り組みや成果を聞くことができ大変勉強になりました。これらの内容を幅広く発信することができれば、募集増に繋がるのではないかと思います。
- 附属高校でも JA 福島さくらや鏡石町等で農産物の商品化に取り組んできた実績があるので、発表に加えていただきたかった。
- 各学科での地域連携事業を知ることが出来て良かったです。どの学科においても教員の負担が増加していると感じました。
- とても良い内容だったので、長田先生の講演資料をアップしていただきたいと思います。
- 長田先生の発表がわかりやすく、地域貢献に臨む際のこちら側の姿勢を改めて確認することができた。
- テーマはとても良かった。
- 他学科がどのような貢献活動を行っているのか、詳細なところまでは知らなかったなので、知ることが出来る良い機会だった。
- 長田氏及び安斎・小松氏が使用した説明資料も、このグループセッションに掲示して頂ければありがたいです。
- 別用があり参加できず残念でした。

設問4「地域に根差した連携事業や貢献事業」について、今後の課題や取り組むべきことなどがありましたらご記入ください。【回答23名】

- 個人/現在いただいている地域とのご縁を大事にしながら、自分も貢献できることを探りたい。
学科・部署：既に多様な地域連携／貢献事業がなされているが、一部の教員に負担が偏っているようにも見えるので、全員がやらなくてもいいのかもしれないが、学科として何かやる場合には自分になるべく参加したいと感じる。
- 教職協働地域貢献活動（事務職も現場へ出向き、地元の方と交流する）
- 直接学生教育に当たっているところだけでなく、関われることはあるのではないか。事務局での学外へのかかわりをもっと推し進めてはいかがか。
- 地域貢献が本務に組み込まれている教員、個人で勤務時間外に行っている教員がいることに、驚いた。本来のあり方とはどちらなのだろうか。
- 研修会でも出た、①支出に対する安定的な財政基盤 ②学科の 1 人のスーパースター教員に一方的に依存せず、長く安定して続けられる活動が今後とも課題になるのではないか
- 他の方の活動も聞いてみたいと思いました。
- 地域貢献活動の学内での評価を示して欲しい。
- 郡司先生がはなされていたが、資金をいただける事業をどのように獲得していくかが大きな課題であろう。
- 地域創成学科の地域創成プロジェクト演習による地域活動は、学科設置以来、各教員の努力によって何とか回ってきたが、その一方で大きな負担になっているのも現実である。それ故、設置から 6 年が過ぎた現在、各プロジェクト間の協力や相互補完など、より持続可能なスタイルの確立に学科として取り組む必要がある。

- まずは同窓会を支援し、卒業生との結びつきを強化することが、地域貢献に繋がると考えられます。
- 学生のスケジュールに余裕がなく（授業期間内の時間割だけではなく、長期休みも実習等で調整が難しい）、本日の発表のような学びの機会を作るのは現実的に厳しいと感じます…。
- 大学による地域連携基金の増大・増額
- 外部資金情報の共有、獲得のための勉強会等
- 今回の発表や事例などを見てみると、連携は学内でももっと進められるのではないかと思います。研究のための研究ではなく、本学は人の暮らしや生活・文化にかかわる実践につながるものが強みかもしれません。他学科と連携して地域との連携、地域貢献事業も可能のように感じました。
- 科研費で「地域に根差した連携事業や貢献事業」を行うことが難しい、という発表内容があったが、実際には他大学ではしばしば行われている。その方法について調べて、自分が関わっている事業に当てはめて科研費を取得する努力が望まれる。
- 原発事故の現況は、いつも忘れないで事業を進めていただきたい。
- 各先生もおっしゃっていましたが、教員の負担が大きいと思います。
- 学科の特性を生かし、学科単位で進めているものがあればよいのでは
- 地域貢献の重要なポイントとして、真に本学の力を必要としている自治体等を対象とすべきと考える。中核市である郡山市等はすでに行政能力が備わっている。公共の名のもとに開成山公園の委託業者に学園が利用されるのはいかがなものか。
- 地域との連携事業や貢献事業を推進する上で教員の負担等の軽減が課題だと思います。
- 短大はあきらかに時間や人力が足りないと思う。学生間の引継ぎも難しいので、学科間を越えて、授業に準じる科目の設定や行事、担当教職員の配置が必要だと思う。うまくいくことばかりではないので、それらをフォローする仕組みが必要と考える。
- 地域連携・地域貢献は本学のみならず、大学・短大における重要な責務のひとつとなっておりますので、個々の教員の自助努力に頼るだけではなく、組織をあげてのバックアップが大切になってくると考えます。

設問 5 学園教育充実研究会の開催時期についてはどうでしたか？

[とても良かった]	33人	39%
[良かった]	44人	53%
[良くなかった]	7人	8%
[まったく良くなかった]	0人	0%

設問 6 今後、学園教育充実研究会で取り上げたい研修内容等がありましたらお書きください。

【回答数20人】

- 学生支援（Z世代と称される世代の人たちの特性を踏まえた支援）に関するものがあると助かります。
- 学園の魅力度アップのために取り組むべきことを考える。話を聞くだけ（一方通行）ではなく、皆で考える。考えて評価の高かったことを実践してみる。

- 本年度のテーマを1回で終わらせるには勿体無いので、継続的に取り上げて良いのではないかと感じました。
- 地域貢献の活動に取り組みづらい方の発表や、学科・大学全体としての体制検討、情報発信の工夫など、多様な視点での議論ができそうな可能性を感じております。
- 教員の研究成果を発表していただきたい。それが、教育とどのように結びついているのか、参考にしたい。
- いずれかの機会に今回の地域貢献活動のその後と、今回提起された課題・問題の検証が檀世になると思われる
- 以前のように外部の方による講演を拝聴したいです。
- 人事考課
- 研修内容ではないが、開催時期を夏に戻してはどうか。
- 本学の取り組みについて改めて知ることができました。今後も取り上げていただきたくよろしくお願いいたします。
- サバティカル制度の導入が予定されているが、その活用のためには単にサバティカル希望教員の授業問題だけでなく、アドバイザーや委員会など、対応の難しい問題があることが予測される。本学の働き方改革と教育活動のバランスを考える機会が必要に思う。
- 80周年に向けて、改めて学生募集をテーマにしても、良いのではないのでしょうか。
- 学生が理解しやすい授業の進め方について、いろいろと事例が知りたいです。数年前まで行われていた、自分たちでワークをするような形式はあまり参考にならないと思います。
- 記載するところがないので、ここに記載させてください。開催日程ですが、早めに決定いただけますと嬉しいです。今回は日程の調整ができましたが。
- 研究倫理

Ⅲ 各種研修会

本学では、平成 24 年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。平成 26 年度からは、研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行っている。今年度の研修会では、昨年に引き続き、オンライン配信を教室で視聴する形の研修会も実施した。

日程		タイトル および 講演者	主 催	出席(人)
1	5/24	2023年度 第1回 大学・食物栄養学科 学科セミナー 「冪的な統計力学の世界」 食物栄養学科 教授 石原正道氏	大学 食物栄養学科	17
2	6/14	令和5年度 めばえドリル利用促進研修会(オンライン研修) 「めばえドリルの成績閲覧方法など」 ライズ(株)リメディアル教育担当 林大二郎氏	教養・キャリア教育委員会、 就職部、IT管理・運営委員会 共催	19
3	6/28	FD研修会 「ChatGPT入門:生成系AIを使って何ができるか」 地域創成学科 講師 佐々木達矢氏	学園教育充実研究会	50
4	7/27	近年の高校生の動向および学生募集に関する研修会 「近年の高校生の動向と学生募集の展開」 リクルート社 平岡雄太郎氏 犬飼莉英氏	入学事務部・広報部、 学生募集・入学委員会 共催	50
5	11/29	2023年度 第2回 大学・食物栄養学科 学科セミナー 「健康と身近なスポーツ」 食物栄養学科 教授 紺野信弘氏	大学 食物栄養学科	21
6	7/31- 8/31	学内での科研費説明会(Web視聴、資料内容確認) 「科研費について」「研究倫理教育受講(事例読む)」	不正防止委員会・教務部 共催	44
7	2/6	令和5年度 障がい学生支援研修会 「女子学生のメンタルヘルスについて、学校の役割・対応」 星ヶ丘病院 精神科医師 森洋子氏	障がい学生支援委員会・ 学生生活部 共催	43
8	2/28	2023年度 第3回 大学・食物栄養学科 学科セミナー 「今、病院で求められる管理栄養士とは」 食物栄養学科 講師 角田真左枝氏	大学 食物栄養学科	21

日程		タイトル および 講演者	主 催	出席(人)
9	3/14	生涯学習・国際交流委員会特別講座 「目標達成のための予定の作り方」 ヴォルテックス会社役員 神戸正博氏	生涯学習・国際交流委員会	14
10	3/22	令和5年度 郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科セミナー 第一部「デンマークの保育施設における音楽教育 /健康教育に関する調査報告」 幼児教育学科 講師 深谷悠里絵氏、准教授 柴田卓氏 第二部「幸福先進国デンマークの子育て・ 保育とデモクラシー」 澤渡夏代ブラント氏	短大 幼児教育学科	31
11	2/19- 3/8	令和5年度ハラスメント防止研修会(Web動画視聴) 「あかるい職場応援団(厚生労働省)」	ハラスメント防止委員会	88
12	3/12- 3/25	令和5年度 著作権に関する研修会 「令和3年度著作権改正に基づく『図書館など公衆 送信サービス』の創設と、その問題点について 図書館司書 係長 和知 剛氏	学園教育充実研究会	44
総計				442

各種研修会[報告]

1. 2023 年度 第 1 回 大学・食物栄養学科 学科セミナー

物理学は世界がどのように構成され、どのような法則に従い、どのような現象が起こるのか、明らかにしようとする学問である。物理学は日常生活を向上させただけでなく、世界に対する認識を変えてきた。我々の生きる世界は日常で経験して獲得する認識とは大きくかけ離れていることが明らかになっている。物理学は日常のありふれた運動や熱などの現象も扱う。熱を扱う熱力学や基礎的な法則から現象を説明しようとする統計力学では、圧力、比熱、相転移などを扱う。

本セミナーでは、標準的なボルツマン・ギブス統計力学を拡張した理論の一つであり、冪的な現象を対象とするツァリス統計力学を扱った。今回のセミナーでは、物理学で扱う対象を示し、これまでに得られている基本的な法則を説明した。また普遍的な法則であると考えられている熱力学の法則に触れ、重要な概念であるエントロピーを導入した。これらの準備の上でボルツマン・ギブス統計力学に触れ、ボルツマン・ギブス統計力学を拡張したツァリス統計力学について説明した。最期に、ツァリス統計力学によって記述される系における、相転移や統計集団に関する最近の研究成果を紹介した。

- 主催
大学 食物栄養学科
- 日程
令和5年5月25日(水) 16:20~17:30
- 会場
532教室
- 講師
石原 正道(大学食物栄養学科 教授)
- 演題
「冪的な統計力学の世界」
- 出席者数
大学15名、短大1名、事務局1名 計17名
- 実施内容(抜粋)
 - (1) 物理学の理論と扱う対象
 - (2) 熱力学と統計力学
 - (3) 冪的な現象とツァリス統計力学
 - (4) ツァリス統計力学を用いた相転移の記述
 - (5) ツァリス統計力学における統計集団



2. 令和5年度 めばえドリル利用促進研修会

本学は、e-ラーニングシステム「めばえドリル」を令和元(2019)年度から導入し、令和3(2021)年度からは「めばえドリル」(基礎編・応用編・SPI対策)を、大学・短大全学科学生が利用できるようになった。就職試験対策として利用する人が増加しているが、さらに利用促進するために教員側の理解を深化させることを目的として研修会を開催した。

昨年同様に、教養・キャリア教育委員会、IT管理・運営委員会、就職部の共催として、オンライン研修で実施した。昨年はコロナ対策のため分散型で2日間開催したが、今年度は1日開催とした。

■ 共催

教養・キャリア教育委員会、IT管理・運営委員会、就職部

■ 日程

令和5年6月14日(水) 16:20~17:00

■ 会場

521教室

■ 講師

株式会社ラインズ社リメディアル教育担当 林大二郎氏

■ テーマ

「めばえドリルの意義、利用状況の確認方法について」

■ 出席者数

大学10名、短大8名、事務局1名 計19名

■ 実施内容

(1) システム概要、ラインズSPIの特長

(2) 【改訂版】めばえドリル・めばえドリルSPI成績閲覧者用マニュアルについて

■ アンケート回答(終了後、Web アンケート)

・全体像が分かり良かった。・説明が丁寧で分かりやすかった。・定期的に利用状況などについて説明会をしてほしい。・集会の時間に特にSPI版を取り入れたいと思う。

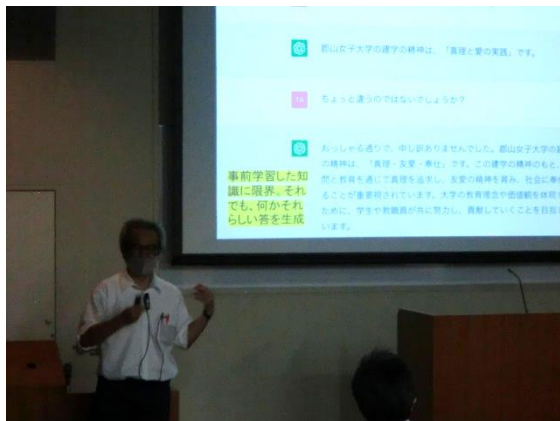
・「めばえドリル」の利用は声掛けだけでは動かない学生が必ずいるため、グループで励まし合いながら取り組めるような動きが出てくることを願ってサポートしてきたが、教員側に時間的な余裕もなく放置状態に陥りがちでした。今後も根気強い研修の継続や活用方法の情報共有などを進めて欲しい。



3. FD 研修会

2022年11月の公開以来、社会の各分野でセンセーションを巻き起こしている、対話型AIのChatGPTについて研修会を実施した。その背景とブレイクスルーのポイントを解説し、すぐにでもできる使い方などを具体的な命令文やプラグインを交えて紹介する。また、ChatGPTの課題についても触れた。

- 主催
学園教育充実研究会
- 日程
令和5年6月28日(水) 16:20 ~ 17:35
- 会場
521教室
- 講師
佐々木 達矢(郡山女子大学短期大学部 地域創成学科講師)
- テーマ
「ChatGPT 入門:生成系 AI を使って何ができるか」
- 出席者数
大学 22 名、短大 21 名、事務局 7 名 計 50 名
- 実施内容
 - (1) 今注目されている ChatGPT とは何か?
 - (2) ChatGPT は何がすごいのか
 - (3) ChatGPT の歴史と進化
 - (4) ChatGPT が行えるタスクの例
 - (5) ビジネス分野等での活用事例とポテンシャル
 - (6) ChatGPT の課題と制約



4. 近年の高校生の動向および学生募集に関する研修会

入学事務・広報部と学生募集・入学委員会共催による近年の進学に対する高校生の動向ならびに東北地区の大学・短大の学生募集に関する研修会を開催した。研修会では、リクルート社が収集した膨大なデータを基に、学生の傾向や他大学の事例を紹介し、本学の学生募集の今後の展開についてお話しいただいた。研修会では、本学の学科構成に関わる栄養系、保育系、家政・生活系、教育系、福祉系の志望者の減少が止まらないこと、女子大への進学希望者が減少していることなどの全体傾向が紹介され、各事象や傾向から、本学でできる対応として、オープンキャンパスへの複数回来訪の強化、低学年時からの早期接触機会の増強などが示されました。本研修は、グループウェア上で動画でも公開し、多くの方に研修会の内容を届けることができた。

- 主催
入学事務部・広報部、学生募集・入学委員会の共催
- 日程
令和5年7月27日(木) 16:20 ~ 17:50
- 会場
創学館 2階 521教室
- 講師
リクルート社 平岡雄太郎氏、犬飼莉英氏
- テーマ
「近年の学生募集環境を踏まえた入試・学生募集・ブランディングの他校事例」
- 出席者数
大学 20 名、短大 15 名、事務局 15 名 計 50 名
- 実施内容
(1) 私立大学・短期大学等入学志願動向
(2) 2023年度入試トピックス
(3) 現代の高校生とは「Z世代」の特徴
(4) 近年の学生募集環境を踏まえた入試・学生募集・ブランディングの他校事例
(5) 郡山女子大学 郡山女子大学短期大学部の23卒データ分析からみる
優先的な課題設定と打ち手方針
(6) 23卒専門学校出願情報



5. 2023 年度 第 2 回 大学・食物栄養学科 学科セミナー

福島県民の健康状態は集団の指数で見る限り、全国的にみて必ずしも良好とはいえません。令和3年(2021)の人口動態統計によると、死因別死亡率の全国順位(高位順、男女一括)は脳血管疾患6位、心疾患9位、糖尿病13位でした。またわが国は少子高齢化が進行しており、会津地方などにおいては高齢化率が50%を超える町村があります。

本セミナーでは高齢化の現状と、高齢化に伴って発現するロコモティブシンドロームの予防などについて論じました。生活習慣病の予防にはバランスのとれた食事と運動は欠かせませんが、ここでは身近なスポーツであるウォーキングを提案しました。能勢らが提唱している「インターバル歩行」などはどうでしょうか。日頃から運動を心掛け肥満や運動機能の維持に努めることは大切であると理解しても、多忙な日常生活の中で、それらを継続的に実行することは必ずしも容易ではありません。皆さん気軽に行えるウォーキングから健康増進といきましょう。

最後に今年度(令和5年度)開設された「スポーツ栄養研究所」について、その目的と今後の方向性についても若干紹介しました。

- 主催
大学 家政学部 食物栄養学科
- 日程
令和5年11月29日(水) 16:20~17:10
- 会場
創学館2階 533教室
- 講師
紺野 信弘 先生(郡山女子大学・家政学部・食物栄養学科 教授)
- 演題
「健康と身近なスポーツ」
- 出席者数
大学16名、短大2名、事務局3名 計21名
- 実施内容
(1) 寿命と健康寿命
(2) ロコモティブシンドロームと生活習慣(特に運動習慣)の関わり
(3) ウォーキング、特にインターバル歩行
(4) スポーツ栄養研究所設立



6. 学内での科研費説明会(Web)

科学研究費助成事業(科研費)について、文部科学省より発表された内容をもとに令和6年度公募の科研費申請書の変更点や近年の動向をまとめ、回覧板を用いて学内での科研費説明会を実施した。また、例年同様に不正防止委員会と共催で行い、あわせて研究倫理教育を行った。

一昨年度より、科研費助成事業の公募、審査結果通知の早期化に伴い、本学でも締切りを早めて対応することとなったが、今年度は締切りがさらに早まったため、学内締切りを9月5日(火)とする。

研究倫理教育については、文部科学省のホームページにある「令和元年度～令和4年度」の研究不正事例を読むこと対応した。

■ 共催

教務部、不正防止委員会

■ 日程

令和5年7月31日(月)～8月31(木)

■ 会場

資料閲覧のため、各部署または各研究室

■ 視聴者数

大学15名、短大21名、事務局8名 計44名

■ 実施内容(抜粋)

(1) 科学研究費助成事業(科研費)について

(2) 科研費の最近の動向及び令和6(2024)年度公募について

(3) 科研費電子申請システムの操作方法について

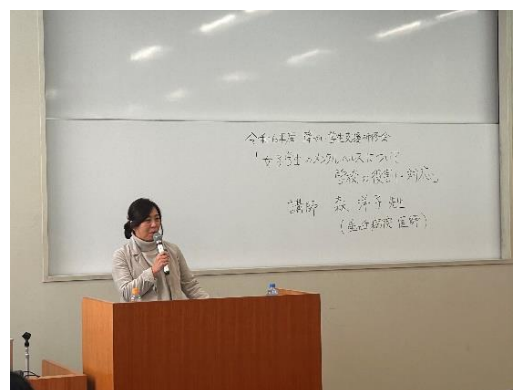
(4) 科学研究費助成事業(科研費)の不正使用・不正行為について

(5) 「令和元年度～令和4年度」の研究不正事例について(文科省ホームページより)

7. 令和5年度障がい学生支援研修会

本学では、令和4年度より障がい学生支援室ペルルを設置し、障がい学生が安心して学校生活を送り、学修できる環境を少しずつ整えてきているところである。しかし、そうした中で、実際には「障がい」とまでは言えないものの、日常生活にさまざまな困難を抱える学生が存在することも実感している。今回は、精神科の医師として学校教育に積極的に関わっていらっしゃる森先生をお招きし、学校生活に不適応を感じる「病氣未満」の女子について、医療機関との連携方法や、医療機関を受診するほどではない学生との相談の在り方などについてお話をうかがった。

- 共催
障がい学生支援委員会・学生生活部
- 日程
令和6年2月6日(火) 13:00~15:00
- 会場
521講義室
- 講師
森 洋子氏(星ヶ丘病院精神科医師)
- テーマ
「女子学生のメンタルヘルスについて、学校の役割・対応」
- 参加者
大学22名、短大15名、事務局6名 計43名
- 実施内容(配布資料より抜粋)
 - (1) 大学生の年代にみられやすい精神疾患
 - ① 心因性(悩み・ストレス因性)の精神障害
 - ② 精神病圏の精神障害
 - ③ 生まれながらの発達特性に基づく障害=発達障害=神経発達症(正式名称)
 - (2) 精神疾患を持つ学生さんへの対応
 - ① 精神病圏の疾患が疑われる時
 - ② 心因性の精神障害
 - (3) 発達障害の診断・傾向を持つ学生さんへの対応
 - ① 発達特性を持つ学生さんの生活の特徴
 - ② つまづきやすい場面と理由
 - ③ 障害者差別解消法
 - (4) 3つの対応
 - ① ユニバーサルデザインとしての事前的改善措置
 - ② 教育的配慮
 - ③ 合理的配慮
 - (5) 内容を決定していく上で重要なポイント4つ
 - (6) 実際



8. 2023 年度 第 3 回 大学・食物栄養学科 学科セミナー

時間外労働の上限規制が、2024年4月から医師にも適用される。これを受け、医師を含む医療従事者の働き方が大きく変わろうとしている。医師の働き方改革の一環として、医師に偏在している業務の一部を移管し、病院スタッフが共同実施することを総称し、タスクシフト・シェアという。

医療従事者がそれぞれの専門性を活かせるよう業務分担を見直すことで、医師の負担軽減と同時にチーム医療の水準を上げることを目指している。

そこで今回は、管理栄養士として医師や他職種への業務改革のための働きかけや、症例を用いて医師の負担軽減をどのように多職種で取り組んでいたか、前勤務先の病院の症例を用いて報告した。

- 主催
大学 家政学部 食物栄養学科
- 日程
令和6年02月28日(水) 16:20~17:20
- 会場
創学館3階 533教室
- 講師
角田 真佐枝 先生(郡山女子大学・家政学部・食物栄養学科 講師)
- 演題
「今、病院で求められる管理栄養士とは ~タスクシフト・シェアの実践報告~」
- 出席者数
大学 16 名、短大 2 名、事務局 3 名 計 21 名 (その他 学生12名)
- 実施内容
 - (1) 医師も含めた医療従事者の働き方改革
 - (2) チーム医療の重要性とその位置付け
 - (3) イレウス術後・人工肛門造設状態・短腸症候群の症例報告
 - (4) 他職種・多職種との連携



9. 生涯学習・国際交流委員会特別講座

生涯学習・国際交流委員会では、生涯学習講座に参加していただいている一般市民の方や本学在學生、教職員の方々が学びをいかした豊かな生活を送るための一助として、特別講座（公開講演会）を実施した。下記の外部講師を招き、「目標達成のための予定の作り方」をテーマとしてお話しいただいた。特別講座はコロナ禍で開催できずにおり、久しぶりの対面での講演となった。カウンセラーが教える夢実現ということで話が進められたご講演に、受講生は熱心に耳を傾けてより充実した生活のための学びを深めた。研修ポイントをつけていただいたので研修会ということもあって、講座には生涯学習講座・国際交流語学講座受講生や学生だけではなく、多くの先生方も参加した。

- 主催
生涯学習・国際交流委員会
- 日程
令和6年3月14日(木) 14:00～15:30
- 会場
521教室
- 講師
神戸 正博氏（ヴォルテックス会社役員 カウンセラー・セミナー講師）
- 演題
「目標達成のための予定の作り方」
- 出席者数
大学4名、短大5名、事務局5名 計14名
- 実施内容（抜粋）

演題の「目標達成のための予定の作り方」について、カウンセラーが教える夢実現ということで、7つの項目（1.できたらいいな リスト100 2.できたらいいな ベスト10 3.手帳に作る宝地図 4.月間ベストオブドリームの決定 5.クリエーション 6.デコレーション7.セレブレーション）をもとに話された。お話とともに、聴講された方々が自ら考えるなげかけなどによって進められていった。

質問の時間には、生涯学習講座の受講生だけではなく、教員側からの質問もあった。また、学生から質問もでて、熱心に受講していた。

講師のパワフルな講演や受講生の質問で時間いっぱいになり、有意義な時間となった。



10. 令和5年度 郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科セミナー

コロナ禍において開催を控えてきた短大幼児教育学科セミナーを令和5年度はゲストスピーカーを招いて対面形式で開催した。今回のテーマは、「幸福先進国デンマークのデモクラシーから保育と子育てを考える」と題し2部構成で実施された。他学科の教員や職員、保育者や学生など、多くの参加があった。

第1部は、幼児教育学科柴田先生からナショナルカリキュラムからみたデンマーク保育の特徴および3月に実施した現地調査の背景と目的の説明が行われた。その後2つの保育園の様子と保育者へのインタビューから、運動及びサイエンスに関する保育実践とデモクラシーの視点について報告があった。次に、深谷先生から音楽に関する報告が行われ、デンマークの保育園および音楽学校の講師へのインタビューから、ミュージックペダグォーと呼ばれる音楽専門の保育士の存在や保育実践の様子が報告された。

第2部は、デンマークに約50年在住し、デンマークの子育てや福祉に関する複数の著者である澤渡夏代ブランド氏による講演が行われた。「幸福先進国デンマークの子育て・保育とデモクラシー」というテーマの通り、デンマークと日本の子育ての違いや保護者・保育者の価値観などを分かりやすく紹介していただいた。多数決や選挙による民主主義ではなく、生まれたときから一人の人間として尊重され、対話を通して物事を決めるプロセスが当たり前の高度なデモクラシーについての内容は、現在の日本の学校教育や社会の様々な場面で参考になると感じた。また、講演終了後のフリートークでは多くの質問があがり、活発な意見交換も行われた。

■ 主催

短大幼児教育学科

■ 日程

令和6年3月22日金 15:00～17:00

■ 会場

833教室

■ 出席者数

大学12名、短大17名、事務局2名 計31名

■ 実施内容

テーマ「幸福先進国デンマークのデモクラシーから保育と子育てを考える」

(1) 第1部：デンマーク保育調査2024報告

「デンマークの保育施設における健康教育に関する調査報告」 幼児教育学科 准教授 柴田卓

「デンマークの保育施設における音楽教育に関する調査報告」 幼児教育学科 講師 深谷悠里絵

(2) 第2部：基調講演

「幸福先進国デンマークの子育て・保育とデモクラシー」 講師 澤渡夏代ブランド氏

(3) 講師を囲んでフリートークセッション



11. 令和5年度ハラスメント防止研修会

ハラスメント防止委員会では、学園全体の教職員を対象とする研修会を年1回開催している。今年度はコロナ感染症が5類へ移行した年であったが、学内でのマスク推奨は継続している状況であることから、今年度も動画視聴による研修とした。詳細は下記の通りである。

- 主催
郡山開成学園ハラスメント防止委員会
- 日程
令和6年2月19日(月)～3月8日(金)
- 会場
各研究室
- 方法
厚生労働省ホームページ掲載動画の視聴
- 視聴者数
大学25名、短大28名、事務局29名、高校6名 計88名
- 内容
(1)「あかるい職場応援団」
(2)視聴確認：グループウェア閲覧板に各自が視聴した月日を記入して報告する形式
(3)研修者数：85名



12. 令和5年度 学校教育における著作権に関する研修会

教務部と不正防止委員会では、教職員を対象に学校教育における著作権に関する研修会をオンデマンド方式で年度末に実施している。今年度で5回目の研修となる。今年度の講師も引き続き図書館司書係長の和知 剛先生にお願いした。研修内容を予め録画したものをオンデマンド方式で配信し、視聴期間を令和5年3月12日(月)～3月25日(月)とした。視聴期間内に44名が視聴した。

■ 共催

教務部・不正防止委員会

■ 日程

■ 令和5年3月12日(月)～3月25日(月)

■ 会場

学内グループウェアを活用したオンデマンド動画の視聴(上記期間内に各自視聴)

■ 講師

和知 剛先生(図書館司書係長)

■ 演題

「令和3年度著作権改正に基づく『図書館など公衆送信サービス』の創設と、その問題点について」

■ 出席者数

大学12名、短大23名、事務局9名 計44名

■ 実施内容(抜粋)

動画掲載URL

https://drive.google.com/file/d/1MG5nQbqx_7A4rg05s1hQ_o721kB9H5-W/view?usp=sharing

(1) 図書館等に関する著作権法の権利制限規定(第31条)について

(2) 著作権法第31条の改正

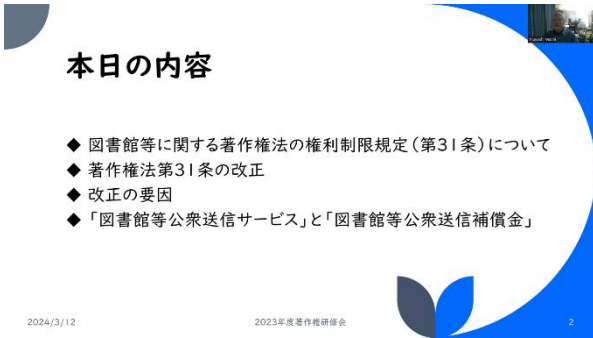
(3) 改正の要因

(4) 「図書館等公衆送信サービス」と「図書館等公衆送信補償金」



令和3年著作権法改正に基づく
「図書館等公衆送信サービス」の
創設と、その問題点について

2023年度著作権研修会(オンデマンド)
和知剛@郡山女子大学短期大学部地域創成学科



本日の内容

- ◆ 図書館等に関する著作権法の権利制限規定(第31条)について
- ◆ 著作権法第31条の改正
- ◆ 改正の要因
- ◆ 「図書館等公衆送信サービス」と「図書館等公衆送信補償金」

2024/3/12

2023年度著作権研修会

2

Ⅳ 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが SD 活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

件 名	主 催	期 日	会 場	出席
【総務部】				
1. 令和5年度日本私立大学協会東北支部事務研修会参加	日本私立大学協会東北支部	2023/8/31 2023/9/1	郡山ビューホテル アネックス	1名
2. 私立大学退職金財団業務説明会	私立大学退職金財団	2023/10/3	アルカディア市ヶ谷 (東京都)	1名
3. 日本私立短期大学協会東北支部総会	日本私立短期大学協会東北支部	2023/11/24	いわきワシントン ホテル(いわき市)	1名
4. 雇用保険電子申請セミナー	ハローワーク郡山	2024/1/25	ハローワーク郡山	1名
5. 令和6年度障害者雇用納付金・ 報奨金申告書 作成事務研修会	高齢・障害・求職者 雇用支援機構	2024/2/9	ビッグパレットふくしま	1名
6. 嘉悦大学・北陸大学IRシンポジウム2023 「IRを活かす人々は誰なのか？ 教育マネジメントからIRを捉え直す」	嘉悦大学・北陸大学	2024/3/7	オンライン(学内)	1名
【経理部】				
1. 令和5年度日本私立大学協会東北支部事務研修会参加	日本私立大学協会東北支部事務局 (東北医科薬科大学)	2023/8/31 2023/9/1	郡山ビューホテル アネックス	1名
2. 令和5年度(通算59回)大学経理部 課長相当者研修会	日本私立大学協会・ 大学経理財務研究会	2023/10/16	オンライン(学内)	1名
【管財部】				
1. 防火・防災管理新規講習	日本防火・防災協会	2023/5/30-31	フォレスト仙台(仙台市)	1名
2. 自治体総合ソリューションセミナー	リコージャパン(株)福島支社	2023/11/15	ビッグパレットふくしま (市内)	1名
3. リコージャパンの社内実践	リコージャパン(株)福島支社	2024/1/26	リコージャパン(株) 福島支社	1名
【入学事務・広報部】				
1. 日本私立大学協会 広報担当者協議会	日本私立大学協会	2023/9/4	オンライン(学内)	1名
2. 日本私立大学協会 広報担当者協議会	日本私立大学協会	2023/9/15	オンライン(学内)	1名

件 名	主 催	期 日	会 場	出 席
【教務部】				
1. 令和5年度科学研究費助成事業等説明会	日本学術振興会	2023/7/19	オンライン(学内)	1名
2. 令和5年度科学研究費助成事業等説明会	放送大学	2023/8/3	DVD視聴	1名
3. 令和5年度日本私立大学協会東北支部 事務研修会	日本私立大学協会 東北支部事務局 (東北医科薬科大学)	2023/8/31 2023/9/1	郡山ビューホテル アネックス	1名
4. 人を対象とする生命科学、 医学系研究に関する倫理指針	文科省生命倫理・ 安全対策室	2023/10/11	オンライン(学内)	2名
5. 令和5年度大学教務課長相当者研修会	日本私立大学協会	2023/10/12	オンライン(学内)	1名
6. 令和5年度私立短期大学教務担当者 研修会	日本私立短期大学協会	2023/10/27	オンライン(学内)	2名
7. 第6回JSPS研究倫理セミナー	日本学術振興会	2023/12/1	オンライン(学内)	1名
8. 令和5年度教職課程認定等に関する 事務担当者説明会	文科省総合教育政策局 人材政策課	2023/12/20	オンライン(学内)	2名
9. 科学研究費助成事業に関する説明会	日本学術振興会・文科省	2024/2/28	オンライン(学内)	1名
【学生生活部】				
1. 令和5年度東北地区学生指導研修会	東北地区学生指導研究会	2023/9/14 -15	岩手大学(盛岡市)	1名
2. 令和5年度日本私立大学協会東北支部 事務研修会参加	日本私立大学協会 東北支部事務局 (東北医科薬科大学)	2023/8/31 2023/9/1	郡山ビューホテル アネックス	1名
3. 学生教育研究災害傷害保険説明会	日本国際教育支援協会	2023/10/3	仙台東京海上 日動ビル(仙台市)	1名
【就職部】				
1. 令和5年度東北地区学生指導研修会	東北地区 学生指導研究会	2023/9/14- 15	岩手大学(盛岡市)	1名
【図書館】				
1. 令和5年度文化をつなぐミュージアム研修	文化庁	2023/12/20- 21	オンライン(学内)	1名
【附属高校】				
1. 令和5年度第48回福島県私学教育研修会	福島県私立中学高等 学校協会	2023/8/22- 23	会津若松ワシントン ホテル	1名
2. 福島県私立中学高等学校事務部会総会・ 研修会	福島県私立中学高等 学校事務部会	2024/2/21	穴原温泉吉川屋 (福島市)	1名
[今期該当なし] 事務局長、保健室、学園SD、附属幼稚園・家庭寮				

ひ と こ と

郡山女子大学大学 副学長 紺野 信弘

本学園では福島県のいくつかの市町村や事業所と連携協定を結んでいる。「包括的連携協定」はJA福島さくら、葛尾村、本宮市、小野町および古殿町、「事業連携協定」は福島民報社、「食と健康に関する連携協定」は鏡石町、「ニコニコこども館実施事業連携協定」は郡山市と締結している。今回の学園教育充実研究会大会は地域連携推進室との共催ということで、大学、大学短期大学部から地域連携に関する6つのテーマが提出され約20分の持ち時間で活動報告がなされた。後日行われた発表内容についてのアンケート結果によると参加した教職員から多くの感想や質問が寄せられており、「地域連携活動」に対する関心の高さが感じられた。各学科の地域連携活動の取り組みが良くわかり参考になったという好意的な意見が多く見られた。大学の使命は「教育」、「研究」、に「地域貢献」が加わったという指摘がなされ、興味深く拝聴した。地域に対して大学がどのようにコミットしていくかが重要な課題として求められる時代になってきたということであろう。

アンケート結果の中に、附属高校でも農産物の商品化などに取り組み地域貢献活動を行っているので、発表に加えて欲しかったとの声もあり一考して欲しい。また地域貢献活動の学内での評価を示してほしい。地域活動が学科の負担になっている部分も出てきたので、持続可能なスタイルになるよう取り組み方に工夫が必要になってきているのではないかとの意見もあった。学園として地域連携活動を今後どのように取り組んでいくのか、いくつか問題提起がなされ有意義な大会であった。

平成24年度から各種研修会が導入され年々充実してきており、今年度は本大会以外に12回開催された。研究成果の発表としては、食物栄養学科セミナー、幼児教育学科セミナーなどがあり、さらに「Chat GPT入門」、「あかるい職場応援団」（ハラスメント防止委員会）、「著作権に関する研修会」など今日的テーマが取り上げられ大いに参考になった。学園教育充実研究会の皆さんの活動は、研修テーマの選定等ご苦勞も多いと思いますが、教職員の新しい知識の獲得と学内の活性化に大いに貢献しておりますので今後とも活躍を期待したい。

本年度の FD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫

今年度は大学・短大の認証評価機関より審査を受け、本研究会の活動に対しても評価され、本学が社会からの大学教育に対する理解と支持が得られるような結果であった。

さて、今年度の学園教育充実研究会の主要なFD・SD活動のである(1)授業公開(2)第58回学園教育充実研究会(大会)(3)各種研修会(4)授業評価アンケートについて、それぞれの活動を振り返ってみる。

(1)昨年度はコロナウイルス感染拡大の観点から、所属の学科の授業のみ参観としたが、今年度は通常公開に戻し、更に前・後期それぞれ3週間にわたり全授業公開を実施し、教員間の教育力向上を図った。前・後期の参観者数は延べ35名であった。

(2)全教職員が集う第59回 学園教育充実研究会(大会)は、地域連携推進室と共催で「地域に根差した本学の取り組みと今後の展望」をテーマに、5名の先生方による地域連携活動の事例発表、地域連携推進室による「地域連携室の取り組みと新規事業について」を発表していただき、本学の地域連携活動の現状を把握し、またお互いの地域連携活動のノウハウを得て、更なる地域貢献を目指していただけた機会とした。実施後のアンケートにおいて、99%の肯定的評価(有益、やや有益を併せた割合)を獲得した。

(3)教職員の研修会参加を促すために設けていた参加下限設定は、今年度も行わなかった。研修会の実施方法は対面、オンラインまたはハイブリッドで実施し、昨年度の研修会実施回数10回に対し、今年度は12回開催され、研修会参加の延べ人数は442名であった。また事務職員の外部研修会参加については、各部署において対面、オンラインによる様々な外部研修会の参加が確認できた。

(4)授業評価アンケートについては、今年度から評価点に基づく7段階の教員総合評価を実施した。アンケート結果を基に授業改善についてFD部門の委員と学生の代表が参画するFD活動については、規程に基づき実施し結果を学科主任へ報告した。

以上、4つの今年度の活動に対して、次年度へ向けた改善を下記に示す。

(1)授業公開については、実施時期、実施方法について検討し、参観者数を増やすための方策を検討する。(2)学園教育充実研究会(大会)については、今年度の大会後のアンケートを踏まえ、実施時期、実施内容について検討する。(3)各種研修会については、次年度もオンラインも含めたで実施方法で、今年度と同等かそれ以上の実施回数を目指し、研修会の充実を図っていく。(4)次年度は授業評価アンケートに基づいた教員評価(ファカルティ・アワード)について検討する。授業評価アンケート結果を基に授業改善についてFD部門の委員と学生の代表が参画するFD活動の実施については、学生の参画人数を含めた実施内容、フィードバックの方法について検討する。

次年度へ向け、教職員の職能開発、教育活動改善に向けたFD・SD活動の展開について更に検討を重ね改善を図っていききたい。

令和5年度(2023) 学園教育充実研究会委員 (大学・短大部門)

部 門	委 員	所 属
FD 部門	磯部 哲夫 (委員長・FD 部門 主任)	短期大学部 幼児教育学科
	岡部 聡子 (FD 部門 副主任)	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 生活科学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 健康栄養学科
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
	佐々木 達矢	短期大学部 地域創成学科
SD 部門	村田 菜織 (SD 部門 主任)	管財部
	安齋 文明 (SD 部門 副主任)	管財部
	阿部 かおり	教務部
	平野 由香子	経理部
	本多 泰治	就職部
	岸本 圭生	入学事務・広報部
	阿部 真澄	総務部
	小橋 健人	教務部